



帝塚山コーポラティブハウス完成イメージ

関電産業(大阪市北区) 同社の場合、建設用地は、コーポラティブ住宅を先行取得した上で、入りの供給に着手する。同社 居者(組合員)を募集するが土地を予め取得した上る。土地を組合に引き渡で組合員を募集することした上で住宅を建設するで短期間での着工・住宅が、組合員が予定戸数に供給をめざす。事業性の満たない場合でも同社が高い、小規模な共同住宅組合員として参加、竣工分野でのニーズ開拓が狙後組合に引き渡す。初弾プロジェクトと事業のコーディネーターとして大阪市内に10戸が入りと設計・監理は、阪神居する共同住宅を建設する間でこれまでに6棟のコーポラティブ住宅で実績

● 関連9面

土地先行取得で 事業期間を短縮

コーポラティブ住宅供給

をもつキューブ(神戸市 帝塚山中1-132-1 塚山地区のような高級住宅中央区)が担当する。同4にあることから、富宅街にある遊休地の開発社のノウハウも生かすこ裕層をターゲットに分譲手法として企画した。建とで、組合結成から4-する。募集戸数は10戸で、築物の高さ制限や、敷地5カ月程度で工事着手で既に組合員の募集を開始が狭い場合でも小規模なコーポラティブ住宅であれば開発が可能で、事業性が見込まれる」と説明している。3月には組合性が見込まれる」と説明する。今後の事業展開については未定だが「今回のプロジェクトの結果をのプロジェクトの結果を

関電産業が初弾プロジェクト

きるという。初弾プロジェクトとなを結成、8-9月ころのる「帝塚山コーポラティブ着工、05年5-6月ころのプロジェクトの完成をめざす。は、住宅地として人気の開発の背景について同踏まえ、検討したい」方高い帝塚山地区(住吉区 社住宅事業本部では「帝針だ。